

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	国語A	国語B
本校	73	63
広島県	76	61
全国	76.1	61.2

本年度の結果について

○取組の成果と課題  
 昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率は68.7%（県69.2%）で、平均通過率30%未満の生徒は1名であった。書く読む領域『要旨の把握』、書く領域『叙述の仕方の確認』の平均通過率が低く、課題があった。取組の結果、接続詞の働きに関する平均正答率は県平均、全国平均よりも高く、『叙述の仕方の確認』では成果が見られたが、『要旨の把握』が課題として残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題  
 A問題は73%と、県平均、全国平均を下回っており、『新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する』問題44.4%、『「韓非子」の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する』問題69.4%と平均正答率が全国平均と比べて、11%以上低く、課題がある。B問題の平均正答率は63%で、県平均、全国平均を上回っているが、『二人の質問の意図として適切なものを選択する』問題の正答率が全国平均よりも6.2%低く、課題がある。

重点課題

【課題1】

A問題の、『新聞紙の製造工程の一部を言い表したものとして適切なものを選択する』問題の平均正答率が44.4%と、全国平均より15.1%も低く、文章の展開に即して情報を整理し、内容を捉えることに課題がある。

【課題2】

A問題の、『「韓非子」の中で矛盾していることの説明として適切なものを選択する』問題の平均正答率が69.4%と、全国平均より11.9%も低く、古典に表れたものの見方や考え方を理解することに課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

【課題1】

図やグラフ、表など、文章の内容を補う資料が出てくる文章の内容読み取りを行うなど、図表が文章のどの部分と関連しているのかを適切に捉えるための指導を行う。また、図表のない文章をより分かりやすくするためにはどのような図表を用いたらよいかも考えさせ、より深い理解を図る。

【課題2】

文中で省略されている主語を丁寧に確認するとともに、どのように話が展開されているのか、登場人物の言葉や行動に注目しつつ考えさせるなど、古典作品を正しく読み取るための指導を行う。

取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	知識定着のための復習プリント、ワークシートの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組		図表が出てくる文章の内容読み取りを行い、図表と文章との関連性について考えさせる指導を行う。	【見取り】 中間試験に課題のあった内容に関わる問題を出題。	ワークシートを用いて、登場人物の言葉や行動を整理し、正しく古典の内容を読み取るための指導を行う。	【見取り】 重点課題に関する問題を期末試験で実施。 【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 100%	【検証】標準学力調査 目標値 1年 平均正答率の全国平均との比較 110% 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 120%	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み、定着を図る。	

## 全国学力・学習状況調査 本年度正答率

	数学 A	数学 B
本校	64	45
広島県	66	46
全国	66.1	46.9

## 本年度の結果について

### ○取組の成果と課題

昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率 72.0% (県平均 66.9%) であった。課題としては、図形領域「円錐と円柱の体積の関係」、関数領域「問題解決の方法の説明」の平均通過率が低かったため、模型や表と式を用いて説明する取組をし、関数領域では成果があり、図形領域が課題として残った。

### ○今年度の調査から新たに明らかになった課題

全国平均正答率と比べ、図形領域「折り目の線の作図と角の二等分線の関係」-21.6%、「2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係」-13.7%と大きく差があり、課題があった。

## 重点課題

### 【課題 1】

図形領域「折り目の線の作図と角の二等分線の関係」の平均正答率が 33.3% であり、角の二等分線の性質についての理解が不十分である。

### 【課題 2】

図形領域「2つの三角形が合同であるために必要な辺や角の相等関係」の平均正答率が 58.3% であり、三角形の合同条件の理解が不十分である。

## 標準学力調査に向けた重点取組

### 【課題 1】

角の二等分線の作図を指導する時に、2辺が重なるように紙を折るなどの作業を取り入れ、「角の二等分線上の点は、角の2辺から等しい距離にある」という性質と関連させながら定着を図る。

### 【課題 2】

三角形の合同条件を覚えることに重点を置いた指導になっていたため、合同になっている図形を見つけることや、合同になるためにはあとの条件が必要かを図形から見つける問題を繰り返し取り入れ、定着を図る。

## 取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	・通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	知識定着のためのワークシート、小テストの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組		ワークシートや復習プリント等を用いて、課題のあった内容を繰り返し取り組む。	【見取り】 中間試験に課題のあった内容に関わる問題を出題。	ワークシートや復習プリント等を用いて、課題のあった内容を繰り返し取り組む。	【見取り】 重点課題に関わる問題を期末試験で実施  【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 100%	【検証】標準学力調査 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 120%	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み、定着を図る。	

全国学力・学習状況調査 本年度正答率

理科	
本校	66
広島県	66
全国	66.1

本年度の結果について

○取組の成果と課題

昨年度の「基礎・基本」定着状況調査では、平均通過率は53.9%（県50.8%）、平均通過率30%未満の生徒は5名であった。分野別平均通過率は、物理分野74.4%（県66.4%）、生物分野65.6%（県65.7%）、地学分野31.7%（県34.7%）、化学分野43.9%（県36.5%）であり、とくに地学分野において課題があり、県平均より3%下回っていたが類似した用語の混同に注意させ、演習を行うことにより知識の定着を図ったため、今年度の地学分野の平均通過率は57.5%（県57.8%）であり県平均に近づけることができた。しかし、実験方法や実験結果から考察するときなど、自分の言葉で簡潔に表現することに課題が残った。

○今年度の調査から新たに明らかになった課題

全国平均正答率と比べ、「無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる」が-27.9%、「1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる」が-11.3%と大きく差があり、「植物を入れた容器の中の温度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」の平均通過率が19.4%で科学的思考表現に課題があった。

重点課題

【課題1】

「無脊椎動物と軟体動物の体のつくりの特徴に関する知識を活用できる」の平均正答率が58.3%で全国平均より27.9%も低く、習得した知識を適用することに課題がある。

【課題2】

「1つの要因を変えるとその他にも変わる可能性のある要因を指摘できる」の平均正答率が50.0%と全国平均より11.3%低く、「植物を入れた容器の中の温度が高くなる蒸散以外の原因を指摘できる」の平均正答率が19.4%しかなく、実験結果から考察するときなど、自分の言葉で簡潔に表現することに課題がある。

標準学力調査に向けた重点取組

【課題1】

動物の体の特徴から自分自身で選んだ動物を分類するなど、各単元の最後に習得した知識を適用できるような課題を設けることによって活用力の定着を図る。

【課題2】

実験の中で課題を提示して、どのような意図が正しく考察させるため、課題を注意深く考え、考察するための演習を行い、思考力の定着を図る。また、適切な用語を用いた文章を作成する演習を行い、自分の言葉で簡潔に表現し説明する力の定着を図る。

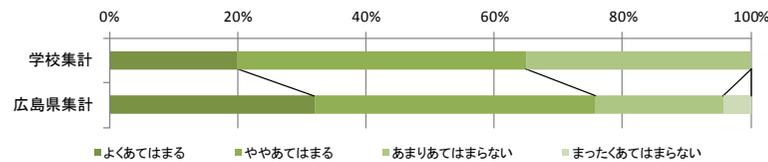
取組計画表

	8月	9月	10月	11月	12月	1月	2月	3月
校内研修等 (職員)	通過率の低かった問題の誤答分析を行う。	知識定着のためのワークシートの作成、用語テストの作成・実施、個別指導の実施						
生徒への取組		ワークシートや復習プリント等を用いて、課題のあった内容を繰り返し取り組む。	【見取り】 中間試験に課題のあった内容にかかわる問題を 出題し定着を図る。	実験の中で課題を提示して、自分の言葉で考察を考えさせる時間を設け、取り組ませる。	【見取り】 重点課題に関する問題を期末試験で実施。 【検証】標準学力調査 目標値 3年 平均正答率の全国平均との比較 100%	【検証】標準学力調査 目標値 1年 平均正答率の全国平均との比較 110% 目標値 2年 平均正答率の全国平均との比較 120%	標準学力調査で課題があった項目をワークシートや復習プリント等を用いて、繰り返し取り組み定着を図る。	

別紙 質問紙調査（「基礎・基本」定着状況調査：生徒質問紙調査）

(1) 生活・学習

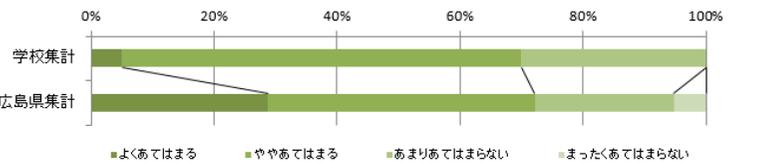
授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想しています。



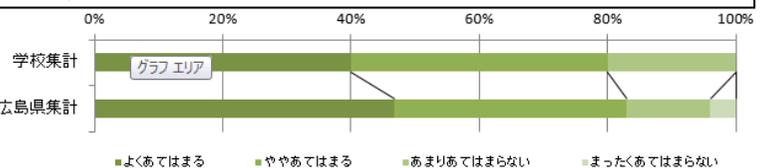
生徒の回答についての課題（現状値）	今後の具体的な取組の内容	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
授業では、解決しようとする課題について、「たぶんこうではないか」、「こうすればできるのではないかと予想している生徒は 65.0%（県平均 75.9%）である。	各教科の授業において、仮説を立てたり、課題を解決する方法を考えたりするなど、見通しをもたせる活動を取り入れる機会を設ける。	2	75%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する	平成31年2月		

(2) 教科

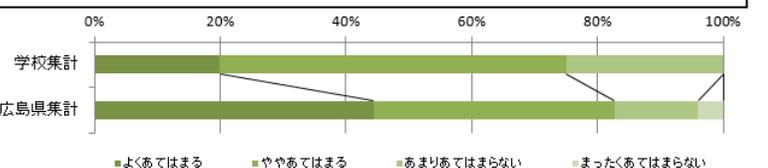
国語の授業では、伝えたいことの内容をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いています。



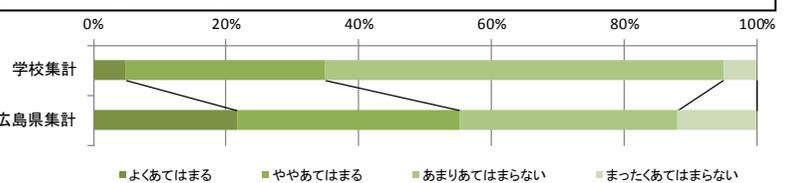
数学の授業では、自分の解き方や考え方と比べながら友だちや先生の説明を聞いています。



理科の授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えています。



英語の授業では、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしています。



	生徒の回答についての課題（現状値）	授業改善の方向性や具体的な取組	学年	目標値	検証方法	検証時期	実施数値	現状からの伸び
国語	授業の中で、伝えたいことの内容をはっきりさせ、組み立てを考えて文章を書いている生徒は 70.0%（県平均 72.2%）である。	自分の考えを書く際に、あらかじめ、伝えたいことの内容は何かをはっきりさせ、文章の構成を考える時間を設ける。	2	80%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成31年2月		
数学	授業では、自分の解き方や考え方と比べながら友だちや先生の説明を聞いている生徒は、80.0%（県平均 83.0%）である。	解答を板書させた時に、正答だったかを確認するだけでなく、自分の解き方や考え方と比べる声かけをし、そのための時間を設ける。	2	85%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成31年2月		
理科	授業では、観察や実験の結果から、どのようなことが分かったか考えている生徒は 75.0%（県平均 82.7%）である。	単元ごとに実験した内容について考察を書かせる場面を取って設け、発表させることで生徒自身でわかったことを考えさせるよう指導する。	2	80%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成31年2月		
英語	授業で、聞いたり読んだりしたことについて、メモを取ったり、感想や意見などを話したり書いたりしているのは 35.0%（県平均 55.3%）である。	授業の中で、リスニングや読み物を取り扱う際に、メモをとったり、それについて意見を書いたりする機会を設ける。	2	45%	同様の質問を生徒アンケート調査によって検証する。	平成31年2月		